

ウクライナ侵略 人道被害を即刻止めよ

ウクライナを武力で隸屬させ
る無謀な企ては、失敗に向かい
つつある。ロシアのプーチン大
統領は、殺戮と破壊を重ねる侵
略を即刻停止すべきだ。

開戦以降で初めて、ロシアが
軍事行動の縮小を表明した。限
定的ながらも停戦協議に向けた
「信頼醸成」が目的だといい、
強気一辺倒だった態度に微妙な
変化がみえる。

攻撃を「劇的に減らす」むけ
の首都キエフの周辺では、ロシ
ア軍の苦戦が伝えられている。

今回の表明は、態勢を立て直す
時間稼ぎなのではないかという
疑念もぬぐえない。

ただ、ロシア側から伝わる言
動には、戦争の目標そのものの
描りきの兆しもつかがえる。

ウクライナの政権交代を求め
ず、欧州連合への加盟を容認す
る。そんな考え方を示し始めた。
そもそも、こうした隣国の主権
の問題を支配しならむつたりせ
るかどこのた問題だ。

自分が誤りだったのだ。

この停戦協議のさなかにも攻
撃は続き、死傷者が出ている。
本気で信頼を醸成したいのなら
ば、ウクライナ全土でただちに
戦闘を止めるべきだ。

協議では、ウクライナ側が具
体的な提案をした。欧米の軍事
同盟に入らず、外国軍も駐留さ
ない。代わりに、国連安保理
常任理事国を含む複数の国から
安全の保証を受ける——ところ
ものだ。

ロシアの要求を踏まえてお
り、真剣な検討に値する。西側
だけでなく、中国も含めた多国
間でウクライナの中立と安全を
担保できるならば、有望な枠組
みになりうるだろ。

ただ、それは中長期的な論点
だ。いま必要な停戦をめぐって
は依然、難題が多い。クリミア
半島とウクライナ東部の扱い
や、ロシア軍をひきまと撤退さ
れるとこだ問題だ。

何よりも現時点では先づか
は、人道被害の停止である。南
部マリウポリでは、住民5千人
が死亡したともいわれる。国内
外に逃れた避難民は、全国民の
約4分の1にのぼる。

ロシア軍は首都攻略は見合わ
せり、東部での戦闘に集中す
る構えだ。少しでも支配地域を
広げて交渉を有利に進める狙い
だらうが、隣国を無理やり分断
して対立と憎悪しか残さない
より歴史は教えてくる。

停戦協議は今回で5回目を数
え、ウクライナの大統領は、ロ
シアとの首脳会談を呼びかけて
いる。一刻も早く戦争に区切り
をつけられるのは、プーチン氏
本人しかいないからだ。

日本を含む国際社会は経済制
裁を中心としたロシアへの圧力を
緩めてはなるまい。同時に、
事態の落着点を探る国際調整を
加速させ、プーチン氏を停戦に
導く環境を整える必要がある。